

平成28年度 行政評価委員会評価表

事業名	骨粗しょう症検診	担当部	健康部
		担当課	健康づくり課

基本情報

概要	<p>【概要】 骨粗しょう症は、年齢や性別、遺伝、体質の他、食生活や運動不足、喫煙、過度の飲酒等の生活習慣が関係して発症するが、発症しても初期症状はない。また、症状が進行し骨がもろくなっている状態で転倒し大腿骨頸部等を骨折すると、長期入院や歩行障害、寝たきりになる可能性もある。そのため、骨密度を測定し、骨の強度を判定することで、骨粗しょう症の早期発見・早期治療に繋げる。</p>
----	--

活動内容	<p>【実施内容】 ①対象者：区内在住の18歳以上の方 ②実施期間：通年（年間15回、各回定員60名。検査日は、前月15日号の「広報かつしか」に掲載し、周知） ③申込方法：電話での予約受付。 ④実施場所：葛飾区保健所（「健康プラザかつしか」内） ⑤実施方法：エックス線照射により骨密度を測定。併せて、骨粗しょう症の予防方法に関するパンフレットを配布。 ⑥受診料：有料（1,120円） ⑦受診結果：1週間以内に検査結果を郵送する。</p>
------	--

施策番号	0103	生活習慣病について知ること、区民自らが健康管理できるようにします
事業の目的	骨粗しょう症を早期発見し、早期治療に結びつける。日常生活習慣の改善や健康意識を向上させる。	

実績情報

成果指標												
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	25年度	26年度	27年度	目標	28年度			
	要精密者率	要精密者数÷受診者数	%	目標	1.8	1.8	1.8		1.6	実績	1.7	1.4
実績の評価・分析	—	—	—	目標	—	—	—	—	実績	—	—	—

平成25年度までは年間22回実施していたが、定員60名に対し受診者数が平均約30名と少なかったことから、平成26年度から年間15回の実施に変更した。これに伴い、平成26年度以降の各回平均受診者数は約50名に増加したが、各回ともに定員を下回る状況が続いている。また、男女ともに、骨密度の低下が懸念され、早めの対策が必要な40代・50代の受診者数は、60代・70代に比べ少ない傾向にある。平成25年度以降の要精密者率は全体的に減少しているものの、男性受診者では、女性受診者に比べ高い水準にある。また、受診者の半数程度が、「要注意」・「要精密」の結果である。このことから、広く区民に本検診の実施や骨粗しょう症の早期発見・早期治療の必要性を周知して受診者数の拡大を図るとともに、健康寿命の延伸を図るため、検診結果に基づき、医療機関の受診や生活習慣の改善を促していく必要がある。



活動指標													
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	25年度	26年度	27年度	目標	28年度				
	受診者数	—	—	人	目標	1,300	750		750	750	実績	642	662
—	—	—	—	目標	—	—	—	—	—	実績	—	—	—
	—	—	—	目標	—	—	—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—	—	—	実績	—	—	—

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	① 区で現在行っている骨粗しょう症検診は、腕にエックス線を照射し骨密度を測定するDXA法を採用している。DXA法による測定は、精度が高く骨密度測定の標準ではあるが、エックス線を使用するため、放射線管理区域以外での測定は行えず、また、測定者も放射線技師（区職員）に限られる。そのため、区では、放射線管理区域があり、放射線技師が常駐する葛飾区保健所にて、日時を限定して検査を実施しているが、受診者は各回の定員を下回っている。
所管課 評価による 方向性	改善 現在、葛飾区保健所において実施しているDXA法の測定器は、平成17年4月から平成23年3月までリース契約をしていたが、リース期間終了後、区の備品として継続使用している状況である。今後は、超音波による持ち運び可能な測定器を導入し、地域に出向き、保健指導や栄養指導も行う出張検診や血管年齢測定器等と合わせた出張健康講座で活用することで、区民の利便性を向上させるとともに事業内容の充実を図り、受診者の拡大を目指す。さらに、区民が気軽に骨密度を測定する機会を増やすことで、自身の骨や骨密度に関心を持っていただき、日常生活習慣の改善や健康意識の向上につなげていきたい。

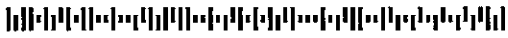
コスト内訳(決算)

項目	単位	26年度	27年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円		
	国庫支出金	千円		
	都道府県支出金	千円		
	その他	千円	741	819
一般財源 (a)	千円	1,882	1,321	

事業費	直接事業費 (b)	千円	365	276	
	消耗品費	千円	281	226	骨粗しょう症パンフレット、プリンタートナー他
印刷製本費	千円	39	6	検査申込書、結果通知用封筒印刷	
通信運搬費	千円	45	44	結果通知郵送料	
人件費等	職員人件費 (c)	千円	2,258	1,863	
	人件費	千円	2,258	1,863	
	再雇用職員	人	0.40	0.35	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	36	85	
	減価償却費	千円			
	金利	千円			
	退職給与引当	千円	36	85	
	(控) コスト対象外	千円			
	トータルコスト (f)	千円	2,659	2,224	

単位あたりコスト	項目	単位	26年度	27年度	コスト増減の理由 平成27年度は平成26年度に比べて、受診者数が増加したため、単位当たりのコストが低下した。検査申込書は2年分まとめて印刷しているため、平成27年度は印刷がなかった。
	単位の定義		延べ受診者数		
	実績数値 (g)	人	662	731	
	単位あたり区単コスト (a/g)	円	2,843	1,807	
	単位あたりコスト (f/g)	円	4,017	3,042	

〒 [redacted]
[redacted]
[redacted]
[redacted] 様



○ 目受けていただいた検査の結果がでましたので、送付させていただきます。

1. 検査日 平成28年3月15日 検査番号 [redacted]
2. 検査結果 今回の検査結果は「**要精密**」でした。(別紙 骨密度測定結果通知書参照)
骨密度が低下している可能性があります。日常生活に気をつけていただくと同時に、
医療機関を受診してください。

○
ご不明な点は、お気軽にお問合せください。

お問い合わせ先：葛飾区健康部健康づくり課
電話 03-3602-1268

【骨密度測定結果通知書】

今回の検査はD X A法による橈骨遠位の骨密度検査です。

検査年月日：平成28年 5月12日（木） 15時37分

検査場所：葛飾区保健所

検査番号：133

名前：葛飾 さくら

年齢：56歳 生年月日：昭和35年 1月 1日

性別：女性 前腕の長さ：24.1 (cm) (左)

測定結果

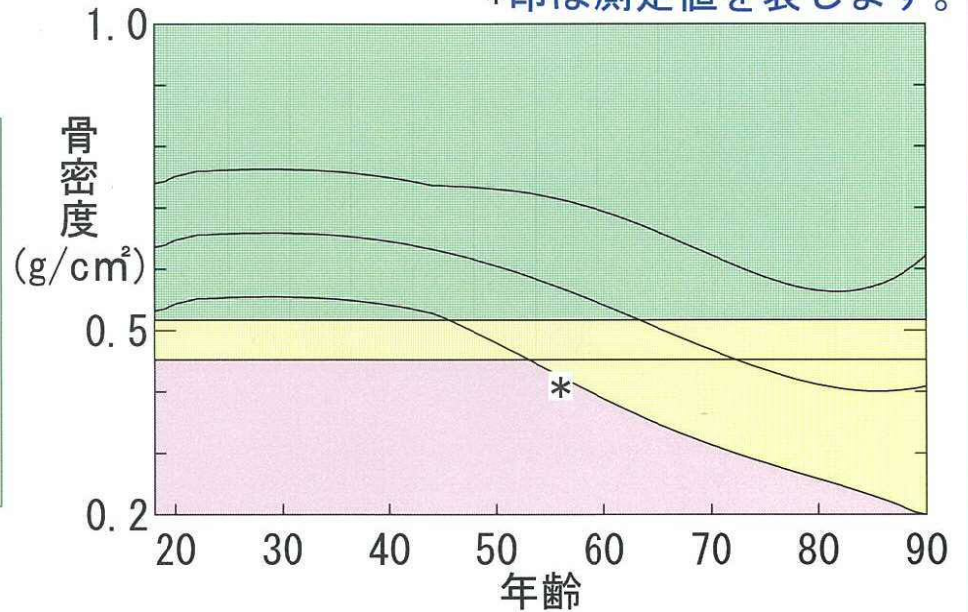
あなたの骨密度（カルシウム量）は、 $0.409 \text{ (g/cm}^2\text{)}$ です。 [橈骨遠位 1/3]
これは、あなたと同じ年齢の平均骨密度と比較して、72 %に相当します。
また、若年成人の平均骨密度と比較すると、63 %に相当します。

*印は測定値を表します。

判定

要精密

骨密度が低下している可能性があります。
日常生活に気をつけていただくと同時に、
医療機関を受診してください。



骨密度検診 検査結果の見方

検査結果の見方

骨密度（カルシウム量）とは？

骨密度は一定の容積あたりの骨に含まれるカルシウムやマグネシウムなどのミネラル量（骨塩量）のことです。正常値の骨密度は20～44歳の平均骨密度を使用しています。

（女性0.646g/cm³ 男性0.772g/cm³）

上記の値を平均値として用いるのは、成人期の骨量は最も密度が高い傾向にあるためです。

骨密度の基準は？

（結果票中央の%で記載してある箇所です。）

上段・・・同じ年齢の平均骨密度と比較した値です。

100%以上の場合は平均以上、

100%を下回った場合は平均未満です。

下段・・・若年成人（20～40歳の平均骨密度）と比較した値です。

今回の判定結果です。

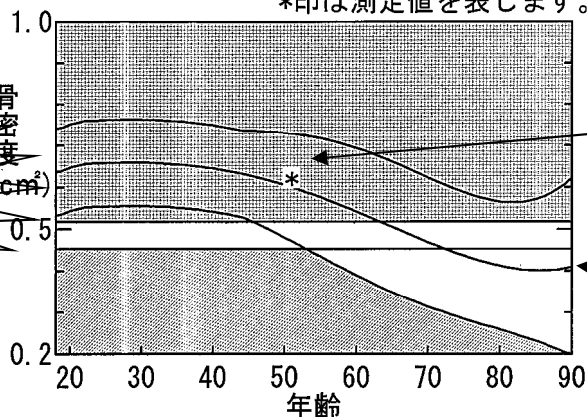
測定結果
あなたの骨密度（カルシウム量）は、**0.621(g/cm³)**です。 [橈骨遠位 1/3]
これは、あなたと同じ年齢の平均骨密度と比較して、**104%**に相当します。
また、若年成人の平均骨密度と比較すると、**96%**に相当します。

判定

異常なし

今回の検査結果は正常の骨密度です。

骨密度
(g/cm³)



*印があなたの骨密度の値です。

中央の線は、同じ年齢の方の平均値です。

グラフ上の色分けと判定の関係は？（あなたの骨密度 グラフの*印のある位置と判定結果を参照してください。）

異常なし（グラフ緑色部分）・・・現在は異常がありません。引き続き栄養バランスに気を配り、適度な運動を心がけましょう。

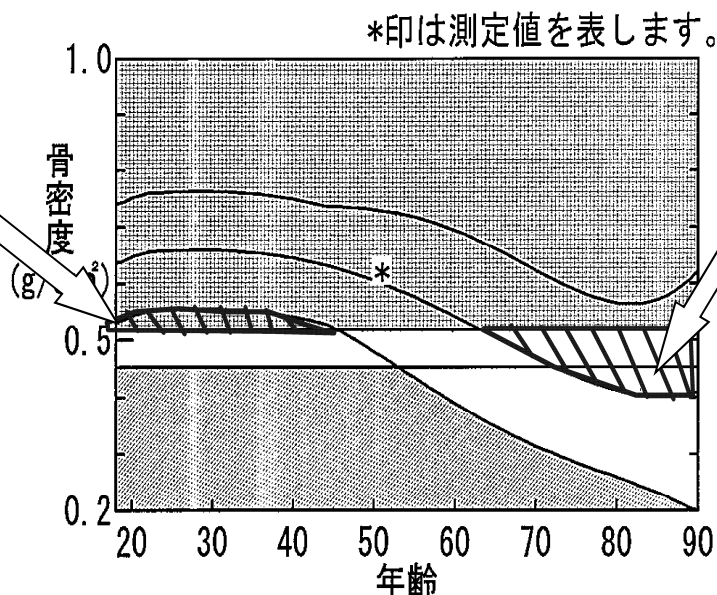
要注意（グラフ黄色部分）・・・骨密度が低下傾向にあります。骨密度の低下を防ぐために、栄養バランスに気を配り、体重の負荷のかかるような運動を行い、予防に努めましょう。

要精密（グラフ赤色部分）・・・骨密度が低下しています。同封の医療機関名簿を参考に医療機関の受診をお勧めします。

但し図の”斜線部分”に*印のある方は、年齢の平均以上・以下に関わらず、判定が変わりますので、年齢別にご注意ください。

20～44歳の方 このゾーンに*がある方

異常なし（グラフ緑色部分）になりますが、年齢に比べて、骨密度が低く、減少傾向です。骨密度は20～40代をピークに加齢とともに減少します。この時期の骨密度を高めるためには、生活習慣を見直し、骨密度の維持に努めましょう。



70歳以上の方 このゾーンに*のある方

同年齢の方に比べると骨密度は高いのですが、要注意（グラフ黄色部分）となります。これは若年成人平均値の70%以下になっているためです。ご自分の以前の骨密度と比較し、維持に努めるとともに、転倒予防などの身の回りの工夫をしましょう。



Q&Aは裏面にあります

今回の検査方法は？

DXA(デキサ法)です。エネルギーの低い2種類のX線を使って海面骨の骨量を測定しています。この方法で腰椎を測定する方法もあります。

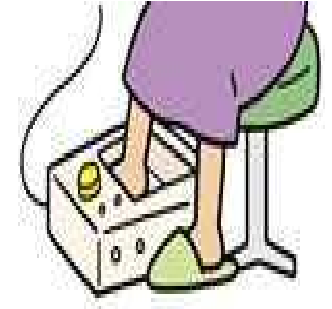
他にも、MD法(皮脂骨の骨量を測定・・・X線を使って、手の骨と厚さの異なるアルミニウム板とを同時に撮影し、骨とアルミニウムの濃度を比べることによって、測定しています)、超音波法(かかとの骨で超音波が骨を通りすぎる速度を測定する方法)があります。



DXA法(腰椎測定)



MD法



超音波法

測定方法で結果が違うのは？

いずれの測定部位であれ、その部位ごとの若年成人平均値を基準値として判定しています。ただし人それぞれで生活活動が違うため、例えば手を良く使う人であれば、前腕の骨が丈夫になり、その結果他の部位の測定結果より良かったりすることがあります。

利き手ではない腕で検査する理由は？

腕や指の骨は、利き腕の違いにより使用頻度に差が生じ、骨への負担の程度が異なります。負担に応じて骨は強くなったり、弱くなったりして、骨密度測定値に現れるため、骨密度が安定した値の、利き腕ではない腕の測定をしています。

いつごろから骨密度に気をつけたらいいの？

理想をいえば、子供のころからです。小学校高学年～中学生時代に骨に含まれるカルシウム量がぐんと増えます。この頃にしっかりとカルシウムを摂り、運動をすると、骨が丈夫になります。子供の頃の生活習慣が、将来の骨の健康に大きく影響します。大人になってからも、よい生活習慣を維持すれば、加齢による影響を軽減することができます。

次に、気をつけたい時期は、女性では女性ホルモンの分泌量が減り始める50歳頃です。閉経後の5年間で急激に骨量が減りますが、この時期に骨粗しょう症対策をきちんと行なえば、骨量の減少を抑えることができます。

ただし、これらの年齢を過ぎた人でも、気づいたときから生活習慣を改善し、骨の健康に意識を向けることで、骨粗しょう症による骨折を防ぐことができます。

骨密度を高めるためにどんな運動をすればいいの？



骨は刺激を受けることで強く成長する性質をもっています。

そのため、骨密度を維持していくためにも軽い運動、特にウォーキングは最適と考えられています。自分の体重が骨細胞に適量の負荷となり、骨密度が高くなるからです。逆にハードすぎる運動は骨密度を低下させますので、注意が必要です。

スイミングなどの水中運動は浮力が働き、膝の悪い方などにはちょうどよい運動です。しかし、骨密度の観点では地上の運動と比較して、効果が薄くなります。

骨粗しょう症検診 集計表(H25年度～H28年度 受診者数)

H25年度			H26年度			H27年度			H28年度		
日にち	申し込み者数(人)	受診者数(人)	日にち	申し込み者数(人)	受診者数(人)	日にち	申し込み者数(人)	受診者数(人)	日にち	申し込み者数(人)	受診者数(人)
4月2日	46	41	4月3日	79	68	4月7日	57	53	4月7日	48	40
4月25日	25	22	5月8日	58	57	5月19日	60	54	4月19日	51	43
5月7日	34	30	6月3日	58	56	6月4日	60	55	5月12日	51	50
5月23日	27	25	7月1日	59	56	6月16日	60	55	5月26日	32	30
6月4日	35	35	8月7日	60	54	7月7日	60	57	6月7日	57	56
6月27日	24	22	9月2日	60	56	8月13日	59	56	6月23日		
7月2日	32	31	10月2日	60	51	8月18日	56	49	7月14日		
7月25日	20	16	11月4日	60	53	9月8日	50	43	8月18日		
8月6日	28	24	12月2日	58	57	10月6日	56	55	9月6日		
8月22日	16	14	1月8日	59	55	10月15日	43	41	10月6日		
9月3日	25	21	2月5日	48	45	11月12日	52	50	11月15日		
9月26日	42	34	3月17日	58	54	12月1日	26	23	12月15日		
10月1日	25	22				1月21日	52	47	1月17日		
10月24日	43	30				2月16日	50	48	2月21日		
11月5日	41	38				3月15日	46	45	3月9日		
11月28日	46	43									
12月3日	56	51									
1月23日	36	30									
2月4日	30	24									
2月27日	22	19									
3月4日	45	43									
3月20日	35	27									
合計	733	642	合計	717	662	合計	787	731	合計	239	219

骨粗しょう症検診 集計表
(H25年度～H28年度 性別・年齢別受診者数)

男性	H25	H26	H27	H28
20歳未満	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0	0
40歳～44歳	1	0	2	0
45歳～49歳	0	0	4	0
50歳～54歳	1	2	1	0
55歳～59歳	1	3	5	0
60歳～64歳	4	8	10	1
65歳～69歳	6	17	16	6
70歳～74歳	18	14	20	5
75歳～79歳	10	9	11	7
80歳～84歳	5	5	11	1
85歳～89歳	2	4	2	3
90歳以上	0	0	1	0
小計	48	62	83	23
女性				
20歳未満	1	0	1	0
20歳～24歳	4	0	2	0
25歳～29歳	1	2	0	0
30歳～34歳	6	6	5	1
35歳～39歳	8	8	17	2
40歳～44歳	18	15	15	3
45歳～49歳	22	30	22	3
50歳～54歳	43	43	50	7
55歳～59歳	63	52	73	14
60歳～64歳	117	121	109	25
65歳～69歳	139	129	166	51
70歳～74歳	98	117	105	41
75歳～79歳	50	58	56	31
80歳～84歳	19	14	24	15
85歳～89歳	3	5	2	2
90歳以上	2	0	1	1
小計	594	600	648	196
男女統計	642	662	731	219

骨粗しょう症検診 集計表

(H25年度 性別・年齢別検査結果)

男性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0	0
40歳～44歳	1	0	0	1
45歳～49歳	0	0	0	0
50歳～54歳	1	0	0	1
55歳～59歳	1	0	0	1
60歳～64歳	4	0	0	4
65歳～69歳	6	0	0	6
70歳～74歳	15	1	2	18
75歳～79歳	9	1	0	10
80歳～84歳	4	1	0	5
85歳～89歳	1	1	0	2
90歳以上	0	0	0	0
小計	42	4	2	48

女性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	1	0	0	1
20歳～24歳	4	0	0	4
25歳～29歳	1	0	0	1
30歳～34歳	6	0	0	6
35歳～39歳	6	2	0	8
40歳～44歳	18	0	0	18
45歳～49歳	22	0	0	22
50歳～54歳	39	4	0	43
55歳～59歳	47	13	3	63
60歳～64歳	58	55	4	117
65歳～69歳	49	88	2	139
70歳～74歳	35	63	0	98
75歳～79歳	10	40	0	50
80歳～84歳	4	15	0	19
85歳～89歳	0	3	0	3
90歳以上	0	2	0	2
小計	300	285	9	594
男女統計	342	289	11	642

骨粗しょう症検診 集計表

(H26年度 性別・年齢別検査結果)

男性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0	0
40歳～44歳	0	0	0	0
45歳～49歳	0	0	0	0
50歳～54歳	2	0	0	2
55歳～59歳	3	0	0	3
60歳～64歳	7	1	0	8
65歳～69歳	17	0	0	17
70歳～74歳	12	2	0	14
75歳～79歳	8	0	1	9
80歳～84歳	3	0	2	5
85歳～89歳	3	1	0	4
90歳以上	0	0	0	0
小計	55	4	3	62

女性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0
25歳～29歳	2	0	0	2
30歳～34歳	6	0	0	6
35歳～39歳	6	2	0	8
40歳～44歳	15	0	0	15
45歳～49歳	30	0	0	30
50歳～54歳	41	1	1	43
55歳～59歳	42	9	1	52
60歳～64歳	58	60	3	121
65歳～69歳	52	76	1	129
70歳～74歳	31	86	0	117
75歳～79歳	7	51	0	58
80歳～84歳	2	12	0	14
85歳～89歳	0	5	0	5
90歳以上	0	0	0	0
小計	292	302	6	600
男女統計	347	306	9	662

骨粗しょう症検診 集計表

(H27年度 性別・年齢別検査結果)

男性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0	0
40歳～44歳	2	0	0	2
45歳～49歳	4	0	0	4
50歳～54歳	1	0	0	1
55歳～59歳	5	0	0	5
60歳～64歳	10	0	0	10
65歳～69歳	15	1	0	16
70歳～74歳	18	2	0	20
75歳～79歳	8	3	0	11
80歳～84歳	10	1	0	11
85歳～89歳	1	1	0	2
90歳以上	0	0	1	1
小計	74	8	1	83

女性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	1	0	0	1
20歳～24歳	2	0	0	2
25歳～29歳	0	0	0	0
30歳～34歳	5	0	0	5
35歳～39歳	16	1	0	17
40歳～44歳	12	3	0	15
45歳～49歳	22	0	0	22
50歳～54歳	47	2	1	50
55歳～59歳	52	18	3	73
60歳～64歳	60	48	1	109
65歳～69歳	58	107	1	166
70歳～74歳	31	74	0	105
75歳～79歳	14	42	0	56
80歳～84歳	7	17	0	24
85歳～89歳	0	2	0	2
90歳以上	0	1	0	1
小計	327	315	6	648
男女統計	401	323	7	731

骨粗しょう症検診 集計表

(H28年度 性別・年齢別検査結果)

男性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0	0
30歳～34歳	0	0	0	0
35歳～39歳	0	0	0	0
40歳～44歳	0	0	0	0
45歳～49歳	0	0	0	0
50歳～54歳	0	0	0	0
55歳～59歳	0	0	0	0
60歳～64歳	2	0	0	2
65歳～69歳	6	0	0	6
70歳～74歳	3	1	1	5
75歳～79歳	5	1	0	6
80歳～84歳	0	1	0	1
85歳～89歳	1	1	1	3
90歳以上	0	0	0	0
小計	17	4	2	23

女性	異常なし (判定1)	要注意 (要指導・判定2)	要精密 (要医療・判定4)	合計
20歳未満	0	0	0	0
20歳～24歳	0	0	0	0
25歳～29歳	0	0	0	0
30歳～34歳	1	0	0	1
35歳～39歳	2	0	0	2
40歳～44歳	4	2	0	6
45歳～49歳	2	0	0	2
50歳～54歳	8	0	0	8
55歳～59歳	10	3	1	14
60歳～64歳	14	16	0	30
65歳～69歳	20	34	0	54
70歳～74歳	11	23	1	35
75歳～79歳	8	18	0	26
80歳～84歳	2	14	0	16
85歳～89歳	0	1	0	1
90歳以上	0	1	0	1
小計	82	112	2	196
男女統計	99	116	4	219

骨密度検査方法比較

	D X A 法（エックス線）	Q U S 法（超音波）
測定部位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前腕 ・ 脊椎骨 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 踵骨
原理	二重エックス線法…2種の異なるエネルギーのエックス線を照射し、骨と軟部組織の吸収差により骨密度を測定する。	超音波…骨の中を通過する際速度である超音波伝達速度（speed of sound:SOS:骨密度）とその際に超音波が減衰する程度を示す超音波減衰率（BUA:骨の硬度や骨梁の三次元構造を反映）を測定し、両者から総合的な指標を算出する。
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精度よく、迅速に測定できる。 ・ 骨密度測定の標準であり、診断・経過観察に使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 装置が安価・小型軽量・移動可能 ・ 測定時間 短い 1分程度。 ・ X線被爆がなく、設置場所 ・ 被検者の制限がない。
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専用の測定装置が必要。 ・ 脊椎専用測定装置の場合は装置が大型で高額であるまた背骨が押し潰されて変形がある場合は対象外。 	骨密度そのものを測っていないので、レントゲンによる診断基準が使えない。最も知りたい背骨や足の付け根の骨密度評価とずれる。
精度	高い。	スクリーニング検査には適している。（精度は重視していない。）
その他	前腕骨測定タイプは、使いやすく、測定時間も短く、放射線被爆も少ない。	測定に際しての留意点 ゼリーの塗布・拭き取り・素足になるための更衣時間（特に冬場）

政策

「1 健康 — 生涯にわたり健康に暮らせるようにします」の体系

政策	施策	計画事業
1	健康 — 生涯にわたり健康に暮らせるようにします	
	01 地域ぐるみの健康づくりを展開し、区民の健康づくりを支援します	
	— <新> 区民健康づくり支援	31
	グループ健康づくり支援	31
	【再掲】高齢者の健康づくりの推進 (→政策22スポーツ)	255
	【再掲】区民健康スポーツ参加促進事業 (→政策22スポーツ)	257
	02 安心して妊娠・出産・育児ができるよう、親と子の心身の健康を支えます [政策6 施策01を再掲]	
	【再掲】特定不妊治療費助成事業の拡充 (→政策6 子ども・家庭支援)	75
	03 生活習慣病について知ることで、区民自らが健康管理できるようにします	
	長寿歯科健康診査	34
	かつしか糖尿病アクションプランの推進	34
	04 食育を通じて、心身ともに健康で豊かに生活できるようにします	
	かつしかの元気食堂推進事業	36

【指標と実績値】

指標	指標の出典	平成25年度	平成26年度
政策(健康)満足度平均値(%)	政策・施策マーケティング調査	49.9	50.8

〈事業一覧〉（平成27年度実施）

●施策01 地域ぐるみの健康づくりを展開し、区民の健康づくりを支援します

区民保養施設提供事業	保健所管理運営
高齢者総合相談事業	薬物乱用防止啓発
熱中症予防対策事業（高齢者）	健康大学
健康総合相談	健康教育関連事務（学校保健との連携）
ぜん息教室	講習会（栄養指導事業）
ぜん息児水泳教室	国民健康・栄養調査
熱中症予防対策（保健所）	歯科健康教育
衛生統計調査事務	受動喫煙防止普及啓発事業
音楽訓練教室	家庭訪問
家庭療養事業	地域健康づくり
地域保健医療協議会	健康教育・地区組織活動

●施策02 安心して妊娠・出産・育児ができるよう、親と子の心身の健康を支えます

【再掲】すくすく歯育て支援事業	【再掲】特定不妊治療費助成事業
【再掲】母子健康診査事業	【再掲】母子医療給付事業
【再掲】母子保健指導事業	

●施策03 生活習慣病について知ることで、区民自らが健康管理できるようにします

かつしか糖尿病アクションプランの推進	胃がん検診
20歳代・30歳代健康診査	眼科健康診査事業
がん検診PR事業	健康手帳
施設通所者健康診査事業（障害者）	骨粗しょう症検診
生活習慣病予防教室	子宮がん検診・子宮頸がん予防ワクチン接種
前立腺がん検診	成人歯科健康診査事業
長寿歯科健康診査	大腸がん検診
特定健康診査追加検査	乳がん検診
母親健康診査	肺がん検診
葛飾区基本健康診査	

●施策04 食育を通じて、心身ともに健康で豊かに生活できるようにします

かつしかの元気食堂推進事業	食育月間等普及啓発
親と子の食育推進事業	

施策

施策 03 生活習慣病について知ること、区民自らが健康管理できるようにします

【施策を取り巻く現状と課題】

- 人口の高齢化や社会生活環境の急激な変化等に伴い、糖尿病、がん、心臓病、脳卒中等に代表される生活習慣病の増加が大きな問題となっています。
- 平成 25 年度の特定健康診査等の結果によると、本区は東京都や特別区の平均と比べて、40 歳～74 歳の生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症）の有病率や、メタボリックシンドロームの予備群や該当者の割合がやや高い傾向にあります。
- 葛飾区保健医療実態調査（平成 25 年）によると、喫煙をしている区民の割合は、男性は 28.8%、女性は 14.1%です。
- 政策・施策マーケティング調査によると、健康診断や人間ドックを定期的に受診している区民の割合は、平成 26 年度で約 7 割です。
- 区民の死亡原因の約 3 分の 1 はがんによるものです。がんは早期に発見し、早期に治療すれば、治る確率は高くなります。区が行うがん検診の受診率は、大幅な伸びは見られず、受診率の向上が課題となっています。
- 生活習慣病である歯周病は、年齢とともに有病率が高くなっています。生涯を通じて歯と口腔の健康を維持し豊かな食生活を営むためには、歯周病を予防し、歯の喪失を防ぐことが重要です。

【施策の方向】

- 生活習慣病を予防するには、食生活や喫煙、運動習慣等の生活習慣を改善することが重要であるため、区民が生活習慣病に関する正しい知識や予防意識を持てるよう、普及啓発を行います。
- 代表的な生活習慣病である糖尿病について、発症や合併症の進行を予防するための総合的な対策を行います。
- 区民が自ら健康管理ができるように、健康診査の機会を確保し、受診率の向上を図ります。
- がんによる早世を予防し、生涯にわたって生活の質を維持向上させるために、がん検診をより区民が利用しやすい方法で実施することなどにより、受診率の向上を図り、がんの早期発見・早期治療につなげます。

【指標と目標値】

指標	指標の説明又は出典	現状値 (平成26年度)	平成 30年度	平成 34年度
健康診断や人間ドックなどを年に1回は受診している区民の割合(%)	政策・施策マーケティング調査	72.2	73.6	75.0
がん75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)	年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率	88.3	82.3	76.3
循環器系疾患75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)	年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率	49.8	45.4	41.0